

テクノロジーの利用により、  
共働き夫婦における最大のストレス要因である  
「家事/育児分担」と「夫婦のコミュニケーション」が改善。  
男性の家事/育児への関わりも進む。

共働き夫婦において、働き続ける上で挙げられる課題は家事/育児の分担や、互いの仕事とプライベートの調整など、「時間の使い方」にまつわるもの。

Google Women Will Project は、女性が働き続けられる社会を目指し、「時間の使い方」に関する課題を解決できる可能性があるスケジューラーにフォーカスし、その活用が共働き夫婦に与える影響を調査しました。

調査分析サマリ ※ 詳細データは次ページ以降に掲載

**●共働き夫婦の最大のストレスは、女性は「家事育児の分担」、男性は「夫婦のコミュニケーション」。**

共働き夫婦における働き続ける上でのストレスは、女性は「家事育児の分担」が最も高い結果となりました。一方男性はそのストレスは低く、男女で意識の差が見られました。男性における働き続ける上でのストレスは「夫婦のコミュニケーション」が最も高く、女性も「家事育児の分担」に次いで高いストレスであることがわかりました。

**●夫婦間でスケジューラーを利用する女性は、「家事/育児の分担」に対するストレスが低く、夫の「家事/育児の関わり」への満足度が高い。**

夫婦間でスケジューラーを利用する女性は、非利用者と比較して「家事/育児の分担」のストレスが低く、夫の家事/育児への関わりも満足度が高い傾向が見られました。

**●夫婦間でスケジューラーを利用する男性は、「家事/育児への取り組み」の時間が長く、自身の「家事/育児への関わり」の満足度も高い。**

夫婦間でスケジューラーを利用している男性は、非利用と比較して家事/育児に使う時間が長く、自身の家事/育児への関わりの満足度も高い傾向が見られました。

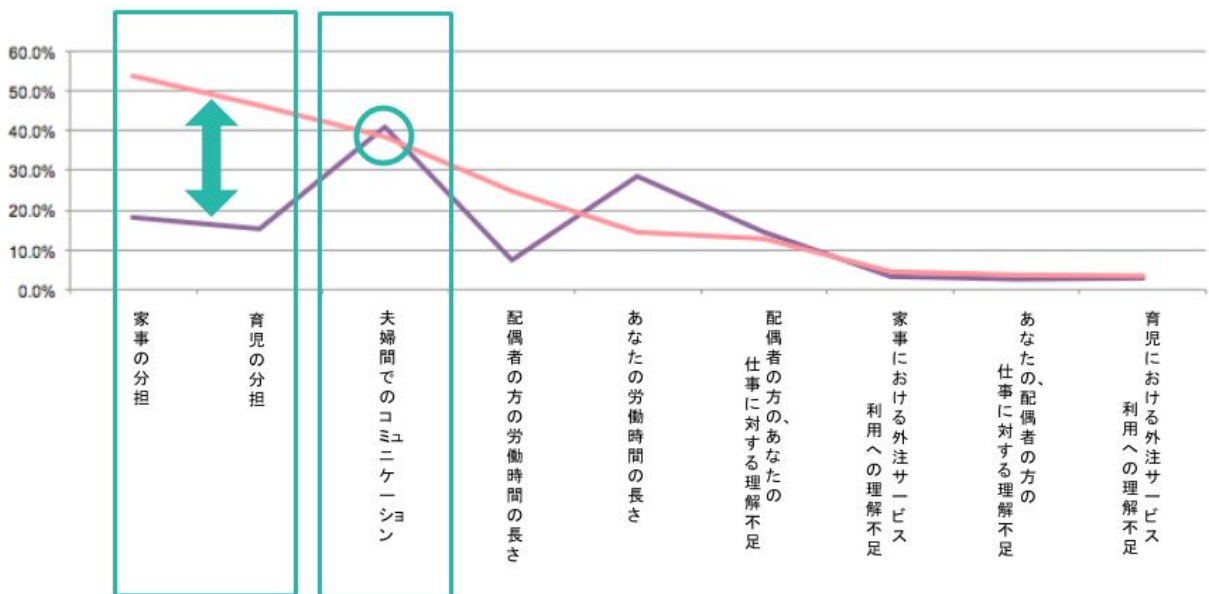
**●夫婦間でスケジューラーを利用した男性は、利用前と比べて家事・育児に対する役割分担が明確に。取り組む意識も向上。**

夫婦間でスケジューラーを利用した男性は「家事・育児に取り組む意識」「家事・育児を分担する意識」などに対し、利用前から変化が起こることがわかりました。

## ●夫婦間でスケジューラーを利用すると、「夫婦間のコミュニケーション」が改善され、幸福度も向上する。

夫婦間でスケジューラーを利用している男女は、非利用と比較して「夫婦間でのコミュニケーション」の満足度が高く、生活における満足度が全体的に高まる傾向が見られました。さらに、幸福度に関しても同様に男女ともに高まることがわかりました。

## ●共働き夫婦の最大のストレスは、女性は「家事育児の分担」、男性は「夫婦のコミュニケーション」。



■ 女性(N = 618) ■ 男性(N = 618)

※有職者人口構成比に合わせて回収した、事前調査における夫婦間スケジューラー利用率を元にウェイトバック集計を実施

1. 女性が働き続ける上で夫婦間に感じるストレスは、「家事/育児の分担」がもっとも高い。一方男性のストレスは低く、その意識に大きな差が見られる。

女性が働く上で夫婦間に感じるストレスは「家事の分担」が最も高く53.8%、次いで「育児の分担」が46.4%と高く、「育児・家事の夫婦間での分担」が最も高いストレスの要因であることがわかった。一方、男性の同項目に対するストレスは、「家事の分担」が18.1%、「育児の分担」が15.1%と、他と比較しても低く、男女で大きな意識の差が見られた。

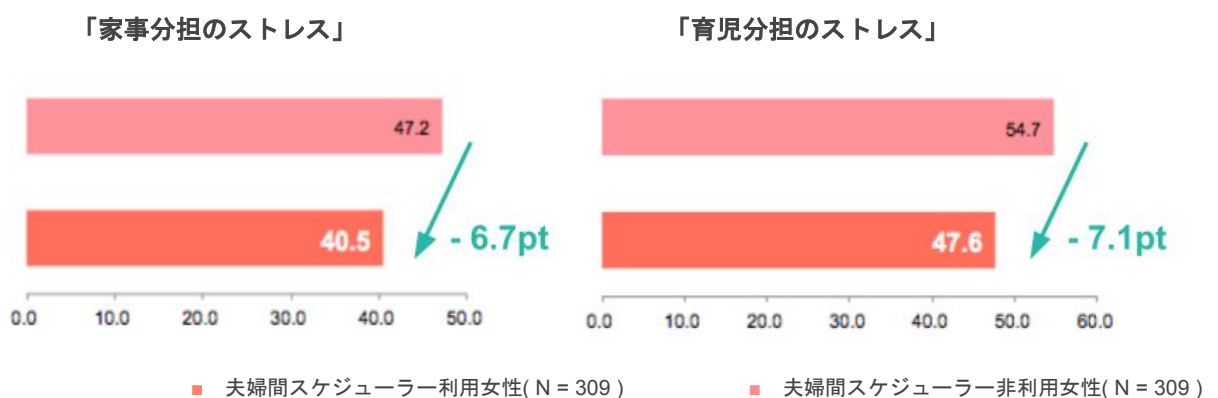
2. 男性が働き続ける上で夫婦間に感じるストレスは「夫婦のコミュニケーション」。女性も同じようにストレスとして感じている。

男性のストレスとして最も高く上がっているのは「夫婦のコミュニケーション」で40.9%。女性も同様に38.5%と「家事/育児の分担」に次いでストレス要因として高いことがわかった。

## ●夫婦間でスケジューラーを利用する女性は、「家事/育児の分担」に対するストレスが低く、夫の「家事/育児の関わり」への満足度が高い。

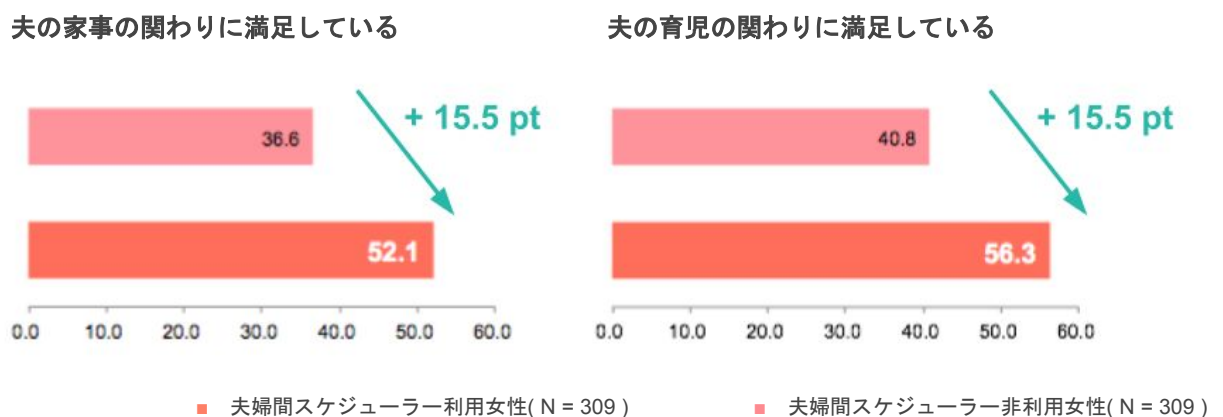
### 1. 夫婦間でスケジューラーを利用している女性は「家事/育児の分担」に対するストレスが低い。

夫婦間でスケジューラーを利用している女性は、非利用の女性と比較して「家事の分担」で 6.7 pt、「育児の分担」で 7.1 pt 「ストレスを感じている」というスコアが低く、スケジューラーの利用がそのストレスを軽減させている可能性が見られた。



### 2. さらに夫の家事 / 育児の関わりに対する満足度は高い傾向にある。

また夫の家事・育児への関わりについて、夫婦間でスケジューラーを利用している女性は「家事」で 52.1 %、「育児」で 56.3 % と過半数以上が「満足している」と回答しており、スケジューラー非利用の女性と比較していずれも 15.5 pt 高く、大きな差が確認された。



## ●夫婦間でスケジューラーを利用する男性は、「家事/育児への取り組み」の時間が長く、自身の「家事/育児への関わり」の満足度も高い。

## 1. 夫婦間でスケジューラーを利用している男性は、非利用の男性と比較して家事 / 育児に取り組む時間が長い。

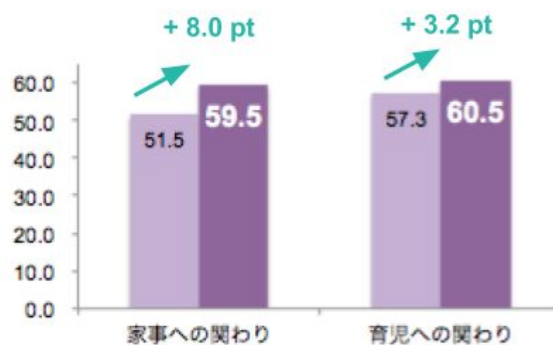
夫婦間でスケジューラーを利用している男性は、非利用の男性との比較で、家事/育児に使う時間が平日で1時間以上と答えた割合が高く、同様に休日で2時間以上と答えた割合も高い結果となった。



■ 夫婦間スケジューラー利用男性 (\*1)      ■ 夫婦間スケジューラー非利用男性 (\*2)  
\*1 ( 平日家事 : N = 304, 休日家事 : N = 307 / 平日育児 : N = 299, 休日育児 : N = 309 )  
\*2 ( 平日家事 : N = 304, 休日育児 : N = 306 / 平日育児 : N = 299, 休日育児 : N = 309 )

## 2. 自身の家事/育児への関わりの満足度も高い。

さらに、夫婦間でスケジューラーを利用している男性は、自身の家事/育児への関わり方への満足度でも非利用男性との比較でそれぞれ高い結果となっている。

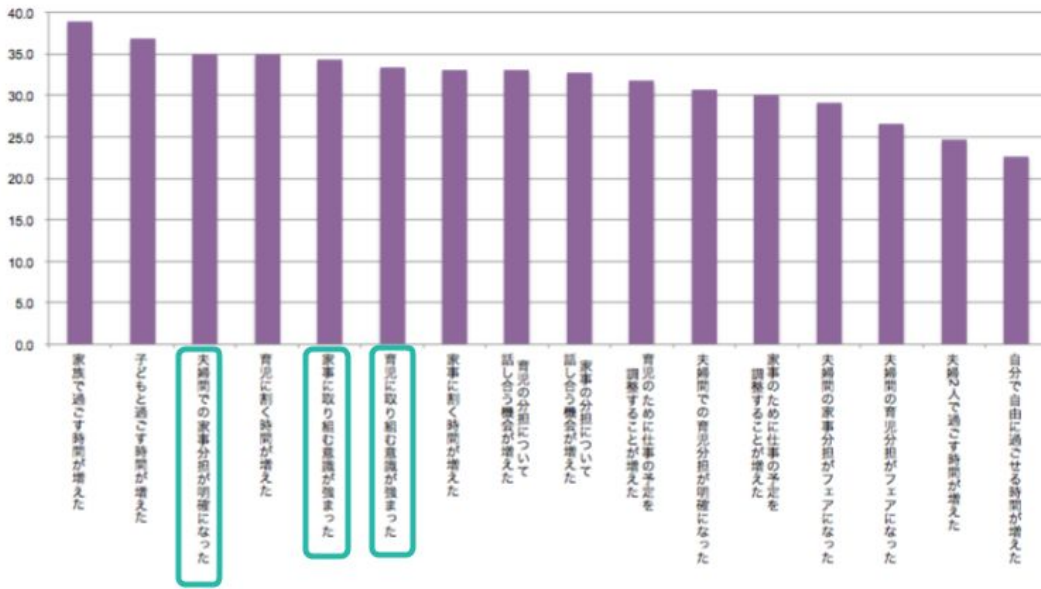


■ 夫婦間スケジューラー利用男性(N = 309)      ■ 夫婦間スケジューラー非利用男性(N = 309)

## ●夫婦間でスケジューラーを利用した男性は、家事・育児に対する役割分担が明確に。また、取り組む意識も向上。

夫婦間でスケジューラーを利用した男性は、「夫婦間での家事分担が明確になった」「家事 / 育児に取り組む意識が高まった」など、「家事・育児に取り組む意識」「家事・育児を分担する意識」などに対し、利用前から変化が起こることがわかった。  
スケジューラーを利用することで、実際の家事・育児時間が伸びただけではなく、夫婦間で役割が明確になり、男性の取組み意識を高める可能性が確認できた。

## スケジューラー利用後の変化



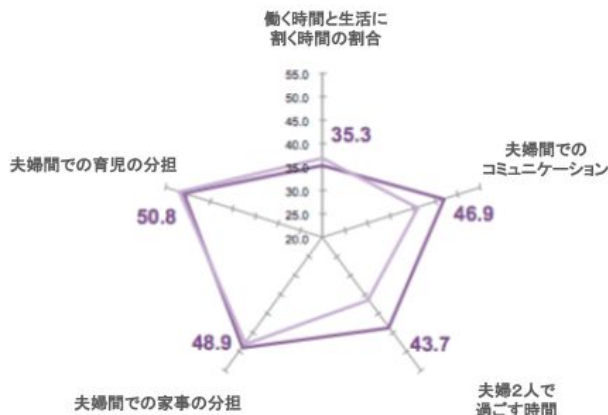
■ 夫婦間スケジューラー利用男性 (N = 309)

## ●夫婦間でスケジューラーを利用すると、「夫婦間のコミュニケーション」の満足度が高まり、幸福度も向上する。

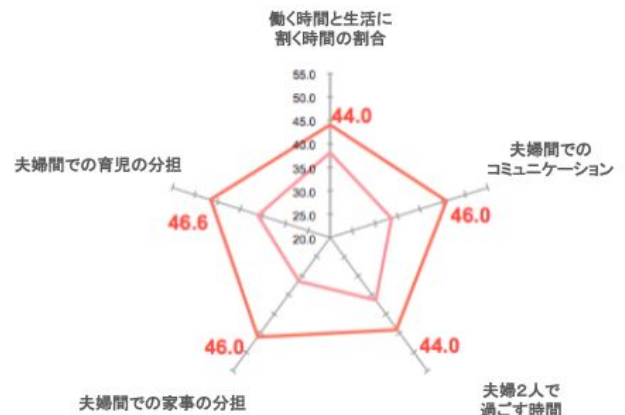
1. 夫婦間でテクノロジーを利用すると、働き続ける上でのストレスで男女ともに高かった「夫婦間のコミュニケーション」が改善され、夫婦間の生活満足度が向上する。

夫婦間でスケジューラーを利用している男女は、非利用の男女と比較して、働き続ける上でのストレスで男女ともに高かった「夫婦間のストレス」が改善される傾向が見られた。特に女性においては、その傾向が顕著に見られ、生活における満足度の項目について全て満足度が非利用女性を上回っている。夫婦間でのスケジューラー利用が、夫婦生活の向上に大きな役割を果たす可能性が見られた。

男性



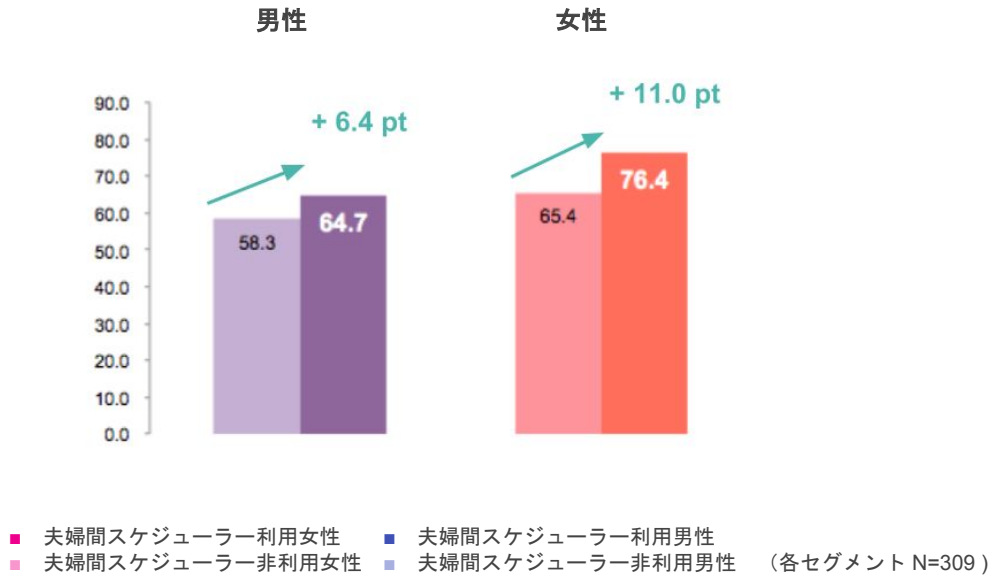
女性



■ 夫婦間スケジューラー利用女性 ■ 夫婦間スケジューラー利用男性  
 ■ 夫婦間スケジューラー非利用女性 ■ 夫婦間スケジューラー非利用男性  
 (各セグメント N=309)

## 2. 夫婦間でスケジューラーを利用すると、男女ともに幸福度が高まる。

その上、夫婦間でスケジューラーを利用している男女は、非利用の男女と比較して、幸福度が男女共に高い傾向にあることがわかった。



### ■ 調査条件について

□調査時期 2016/10/22-10/23

□サンプル数 市場把握調査 N=30,000 本調査 N=1,236

#### □対象者条件

- ・ 全国の 20 歳～ 49 歳
- ・ 既婚子あり
- ・ 配偶者と同居
- ・ 夫婦共に就業 (総務省「労働力調査 (詳細集計)」の定義と合わせた非農林業雇用者)
- ・ 長子年齢小学生以下
- ・ 本人、配偶者いずれもスマートフォンユーザー
- ・ 夫婦間でスケジュール共有ツール利用を、「テクノロジー利用」として定義

夫婦間テクノロジー利用男性 N = 309  
 夫婦間テクノロジー非利用男性 N = 309  
 夫婦間テクノロジー利用女性 N = 309  
 夫婦間テクノロジー非利用女性 N = 309

#### □対象者情報

##### 性年代構成



# 長子年齢構成

